

檀信徒・霊園使用者各位に発行しています。

## 今年はどうな一年でしたか？

暦は師走。気がついたら年末になってしまいました。檀信徒の皆様方にとつて今年、平成27年はどんな一年でしたでしょうか。個人的に印象の深かったニュースは9月の集中豪雨で氾濫決壊した鬼怒川の被害でした。ヘリコプターからの映像に東日本大震災の衝撃を思い起こされて、しばらく画面から目が離せませんでした。消防はじめ警察、自衛隊の方々の命をかけた救助、自治体の方々の必死の活動を見るにつけ、行方不明者の数が0になったニュースを聞いたとき、思わず手を打ってしまいました。二つの震災を経験した日本人の、大きな成長を見たような気がします。

しかしそれでも、自然災害で命を落とすことがままあるということが、現代文明にどつぶりつかり、万能な生活を享受している私たちに、「生きる」という警告のように思えるのです。自分の力ではどうしようもない時、昔から我々は時に神に祈り、仏にすがってきました。その素直な祈りと諦念こそが、今日一日を一生懸命生き抜こうという強い意志を作ったのではないかと思います。目に見えない神仏の力を信じることも、これまたいつの時代も忘れてはならない日本人の智慧、というものかもしれません。



### お施餓鬼会 (平成27年11月3日)

今年も盛大にお施餓鬼が行われました。秋晴れの中、たくさんの方にお参りいただきました。改めまして御礼申し上げます。ありがとうございました。来年はもっと盛り上げていきたいと思ひます。



## 法話

### 「臨濟義玄と白隠慧鶴」

来年、わが臨濟宗の祖、臨濟義玄禪師と、日本で発展した臨濟禅の中興と仰がれる白隠慧鶴禪師の記念の年に当たります。

日本に現在伝わる禅の教えは、お釈迦様から二十八代目、達磨大師がインドから、当時の最先端文明国である中国に、請われてやってくることに始まります。この「達磨大師が西(インド)からやってきた」という出来事を、禅の世界では象徴的に「如何なるか是れ祖師西来意」と表現します。このフレーズはそのまま「達磨大師が西から来て広めた禅の神髄とはなんだ？」という問いになるのです。この問いに対して黄檗希雲禪師は「祖師は西来して、ただ仏心を伝え、汝らの心の本来はれ仏なるを直指せり」と答えています。「直指せり」とは「はっきり示した」という意味ですから、達磨大師が来るまでは「ぼんやり」としていたので「わしが答えるより以前、達磨が来るより遙か前、生まれられたときから我々の心は、ずっと仏と同一のものであった事を、達磨は初めてはっきりと示し、その当たり前の事を、気付かせてくれたのだ」と黄檗は言うのです。

来年、わが臨濟宗の祖、臨濟義玄禪師と、日本で発展した臨濟禅の中興と仰がれる白隠慧鶴禪師の記念の年に当たります。日本に現在伝わる禅の教えは、お釈迦様から二十八代目、達磨大師がインドから、当時の最先端文明国である中国に、請われてやってくることに始まります。この「達磨大師が西(インド)からやってきた」という出来事を、禅の世界では象徴的に「如何なるか是れ祖師西来意」と表現します。このフレーズはそのまま「達磨大師が西から来て広めた禅の神髄とはなんだ？」という問いになるのです。この問いに対して黄檗希雲禪師は「祖師は西来して、ただ仏心を伝え、汝らの心の本来はれ仏なるを直指せり」と答えています。「直指せり」とは「はっきり示した」という意味ですから、達磨大師が来るまでは「ぼんやり」としていたので「わしが答えるより以前、達磨が来るより遙か前、生まれられたときから我々の心は、ずっと仏と同一のものであった事を、達磨は初めてはっきりと示し、その当たり前の事を、気付かせてくれたのだ」と黄檗は言うのです。

この臨濟禅師の法を脈々受け継ぎながら、更にわかりやすく示していただくことが、日本が誇る禅匠、白隠慧鶴禪師です。「白隠禪師坐禅和讃」には「衆生(仏の世界に)近きを知らずして遠く求むるはかなきよ」「例えば水の中に居て渴をさげぶが如くなり」とあります。もともと私たちは仏の世界にどつぶりつかっているのに、外ばかりに仏を求めて、結局、自分の事が見えていないのは愚かしいと言っているのです。

臨濟禅師も白隠禪師も、この「祖師西来意」を獲得するために大変苦労されました。あるときは三度も棒で痛打され、またあるときは石段から蹴落とされ、全身痣だらけになってやつと気づくのです。「ああ、今まさに痛いと感じているわだが、そのままの私なのだ。なんの過不足があるか」

黄檗の後を継いだ臨濟禅師は「せつかく指摘してくれただのに何故気づかないのだ」と再三、繰り返しておっしゃいます。「ただ汝の信不及なるがために、外に向かつて価値を求め、己の頭を見ることが出来ないといつて騒ぎ立てるのだ」信不及とは信じ切れていないという意味です。「心は本来是れ仏である。その当たり前のことをしつかり信じ切れぬから、余計なものに引つかかかって、かえって迷い乱れるのだ」これが臨濟宗の根幹となるのです。

この臨濟禅師の法を脈々受け継ぎながら、更にわかりやすく示していただくことが、日本が誇る禅匠、白隠慧鶴禪師です。「白隠禪師坐禅和讃」には「衆生(仏の世界に)近きを知らずして遠く求むるはかなきよ」「例えば水の中に居て渴をさげぶが如くなり」とあります。もともと私たちは仏の世界にどつぶりつかっているのに、外ばかりに仏を求めて、結局、自分の事が見えていないのは愚かしいと言っているのです。

私「坐禅和讃」は子供の時から何千回と読んでいます。しかし「オマエは元々仏なんだよ」と言われても「そうかなあ、それにしては未熟な人間だけだなあ」と正直しく思っております。や

をせず、良いことも嫌なことも、そのまま素直に受け取って、良い結末でも悪い結果でもやっばりそのまま受け入れて、判釈しない。それこそが「ただわたしとして生きる」ことなのです。臨濟禅師も白隠禪師も、この「祖師西来意」を獲得するために大変苦労されました。あるときは三度も棒で痛打され、またあるときは石段から蹴落とされ、全身痣だらけになってやつと気づくのです。「ああ、今まさに痛いと感じているわだが、そのままの私なのだ。なんの過不足があるか」



# コラム 葬儀にまつわる よもやまばなし



都市部ではこのところ、新しい葬儀業者が多く誕生しているようです。都下巨大ベッドタウンである我が八王子も例外ではありません。新規業者の誕生にはいくつか種類があつて、一つには大きな組織の会社から独立したケース。独立して2〜3人で新たに起業しても、現在は小さい規模のお葬式が多いですから充分こなしていけるようです。二つ目は地方都市で成長した葬儀社が新たに進出してくるケース。

先日もある会社から「会社の宣伝にお寺を載せて良いか」という問い合わせが来しました。よく見てもたら元々北海道の会社なのでね。八王子にはすでに福岡が基盤の会社や埼玉で有名な会社などが次々事務所を構えています。豊富な資金力で立

派な式場を建設し、一大勢力となつてきているようです。三つ目は全くの他業種から葬儀業界に参入してくるケース。一時SPAパークケットチェーンが葬儀に参集して話題になりました。目玉は「格安」。森厳な死者儀礼である葬儀までタイムセールされたらたまりません。またこういう新規参入者は自分で葬儀のノウハウを持ちませんから実際は電話で受付だけしてあとは派遣や下請けとなつた業者に丸投げします。責任感もあつたもんでありません。

さて私たちお寺の人間が「これはちゃんとした葬儀屋だな」と判断するときの一つの材料があります。それは葬儀の打ち合わせのとき「墓地をどこに持つているか」をきちんと確認するかどうか、ということなので、先ほど述べたように都市部では沢山の業者がひしめいていますから当然「お客」の取り合いになる。葬儀屋にしてみれば運良く捕まえた葬家に「どこそこのお寺にお墓があるから」とうっかり連絡されると、葬儀の主導権を任職に握られてしまう、悪くすれば住職が違う業者に決めてしまふ、ということになりかねない。そこで「お寺はあとでも大丈夫です」「こちらで全て済ませてから」などともないことを言う。葬家が家族を亡くして慌てているのを良いことに確認も何もせず手前勝手に全てを進めてしまつて、契約をしてしまふ、などと言うこともあるのです。言うまでも無いことですが一般的に寺院墓地や霊園にお墓を持つ場合、そのお寺で葬儀法要を行うのが普通です。業者の言いなりでお葬式から戒名からよくわからない「マンション坊主」で済ませてしまふ、さあ納骨だけは元のお寺で、というのは通りません。お墓は単なる遺骨の収納場所ではありません。きちんとしたお寺にしてみれば、今後何代にもわたつて菩提を引き受けるのですから、「突然お骨でやつてきた誰だかわからない人」を「誰が

つけたんだかわからない戒名」で、といわれてもちょっと困つちゃうわけですね。宗教者としての責任がとれないのでは、お経を挙げられる仏さまにも申し訳ないからです。（もちろん宝泉寺もきちんとしたお寺ですよ）しかし、とにかく仕事に欲しい業者は葬家やお寺のそんな理由はお構いなしです。早く終わらせたい料金を回収さえすれば良い。そこでいろいろなトラブルが主に葬儀を終えたあとに起こることになってしまふのです。仮にクレームを出しても既に葬儀は終わつてしまふので、言つた言わぬ間の水掛け論で解決しよ

うもありません。結局最後は葬家とお寺と話し合い、互いに仏さまに申し訳ないと後悔しながら法事をするというたいへんみつともないことになつてしまふのです。許せない。思い切つて言えば一大事に直面し、呆然としてしまふ喪主さんに非はありません。もちろん一切を知らされないうお寺にも非はありません。非は金儲け一辺倒で、仏さまのこと、葬家の事などお構いなしの劣悪業者にあるのです。そんなやつらに大事な檀信徒の皆様のお葬儀をしてほしくない。だいたい仏さまに関わつてほしくない。願わくば全ての方の御葬儀

が厳格かつしめやかに、なごやかに、きちんと行われてほしい、だからこそ万が一の時はお寺に連絡してほしいのです。「葬儀社は御葬家とお寺のサポート業」であるときちんと理解し、手前勝手なことなど絶対しない、確実な業者を私は知っています。互助会という物がどういふ物か、ということもわかっています。どの業者のどの担当者が優秀か、ということまで知っています。葬儀屋のテレビCMなど信用しちやいけません。葬儀を含めた「菩提を弔う」との一番のプロは「業者」ではありません。お寺です。

霊園管理事務所から  
**霊園だより**  
今年もあとわずかになりましたが皆様いかがお過ごしでしょうか。一月少し前、お寺の倉庫から「にゃーにゃー」という鳴き声が聞こえてきてご住職が中を覗いてみると猫が迷い込んでいたそうです。何となくなついてしまふ、どこかで飼われている様子もないので病院に連れて行き、お風呂にも入つて名前をつけて貰ひ、ついにお寺で飼うことになりました。管理事務所にも日中は気ままに入内りしています。猫好きな方は墓参り時会いに来てみてください。気まぐれなので居ないときもありませんが、八王子南霊園  
管理事務所 畑山

身(体)口(言葉)意(心)の三つの働きの業の全てであるとする仏教教理。心で考え、言葉で伝え、体で行動するのが人間の行いだということ。悪い心からは悪い言葉、悪い行いが生まれ、良い心からは美しい言葉

## {さ} あいうえお用語辞典 (三業さんごう)

尊い行いが現れる。日常我々に起こる出来事(業)の原因は突き詰めていくと「こころ」のありように左右されるのです。ということとは悪業善業は私の心次第! そうだったのです。お正月までにあらためましょうネ。

ご 知らせ  
この「宝泉寺報」は、霊園使用者の方、檀信徒の方々にお配りしておりますが、最近、親戚や、子供の家にも送ってほしいというご要望がありました。そこで、ご希望があれば各家のお施主さん以外の方にもお送りしたいと思います。送ってあげたい人の名前、住所、ご自身との関係(子、孫、友人など)を添えて、HP、メール、FAX、お手紙などでご連絡ください。

**宝泉寺** 〒193-0944 東京都八王子市館町344  
TEL/FAX 042-661-3353 info@housenji.net

### 大事なお知らせ

## 当山併設「葬祭場宝泉寺別院」が開場以来 20 周年を迎えました。

これを記念して、使用料金改定を行いました。

檀信徒の皆様は今後、**霊安室、式場使用料共に無料**となります。これにより、これまでより更にお金の心配をせずにキチンと儀式を行えるものと思います。

葬儀にまつわるトラブルがとて多く報告されています。料金が不明瞭、頼んだ物と違う、不親切だ、等々。

大事な葬儀はなるべく心おきなく滞りなく済ませたいもの。万が一の時にはまず葬儀社に依頼する前に宝泉寺にお電話ください。互助会などに参加している方も、まず宝泉寺へ。よろしく願ひします。

### オススメ図書

「笑う禅僧 公案と悟り」  
安永祖堂 講談社現代新書

天竜寺国際禅道場の師家にして花園大学教授でもある老僧様の新書。老僧と言つても50代。新進気鋭の禅の指導者らしく、哲学心理学から水木しげるの妖怪漫画まで幅広い知識と、我々がいつも見ている風景から禅の世界を紹介してくれまふ。軽妙なエッセイ集のように読めて、深い教理も知ることが出来る、面白い一冊。著者の講義を受けたことがありますが、頼れる兄貴の老僧様でした。新書だから買いやすい! 760円。

笑う禅僧 公案と悟り  
悩め、苦しめ、そして答えよ!  
まったく新しい 禅問答入門